

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/



JF 高松市北浜町8-25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699
JF香川漁連

ノリ着業検討会開催

香川県海苔養殖研究会(会長 森 朝征)は去る8月25日(火)から9月1日(火)にかけて平成21年度ノリ着業検討会を開催した。

本検討会は、毎年新漁期を迎えるに当たって、ノリ養殖業の安定と品質向上及び経営の合理化を目的に、海苔養殖指導指針や酸処理剤の取扱要領並びに乾海苔共販対策等を直接生産者に周知するため、関係機関の協力のもと例年各地区で開催している。本年度は県内3地区で開催し、ノリ養殖業者・漁業関係者が出席した。

8月25日(火) 高松・中西讃地区

8月27日(木) 小豆地区

9月1日(火) 東讃地区

検討会では「海苔養殖指導指針について」や「酸処理剤取り扱い要領について」(事務局)、「水温・栄養塩の動向について」(県水試)、「ノリ養殖聞き取り調査結果について」(県水産課)等の説明が行われた。今漁期のノリ作りについては、食品の安心・安全性が叫ばれている中で、特に異物混入等衛生対策についてはより一層強化する事が確認された。又、色落ち対策については活発な議論がかわされた。



検討会の様子

検討会終了後、茨木海苔(株)代表取締役社長 岡本善男氏、小浅商事(株)代表取締役社長 白羽 悟氏、松谷海苔(株)代表取締役社長 松谷 晃氏から「乾ノリの消費動向について」、「香川県産乾ノリの評価・改善点について」をテーマにそれぞれ講演が

あり出席者全員が熱心に聞き入っていた。また、消費需給動向・共販価格等について活発な意見交換が行われた。



茨木海苔 岡本社長の講演

平成21年度漁業技術研修会

兵庫県の乾海苔の生産動向や兵庫県産海苔に対する評価や改善点について理解を深め、今後の本県海苔生産の参考にすることを目的とした平成21年度漁業技術研修会が、去る9月3日(木)に漁連会館6階大会議室において、漁業関係者約40名が参加し開催された。

主催者を代表して菊地県水産課課長補佐より開会挨拶の後、兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター主席研究員の二羽恭介氏による講演が行われた。演題は「兵庫県における最近の海苔養殖の動向と今後の展望について」ということで兵庫県における海苔の生産動向に関する活動が報告された。

1. 「兵庫県におけるノリ養殖と色落ちの現状」
 - ・ 最近の4月における生産動向
 - ・ 播磨灘東部における栄養塩濃度の推移
 - ・ 兵庫県における色落ち発生のパターン
 - ・ 最近の兵庫県播磨灘側の色落ち被害状況
 - ・ 他
2. 「色落ち被害軽減に向けた取り組み」
 - ・ 生産現場での取り組み
 - ・ 色落ち発生時期の予測
 - ・ 栄養塩添加に向けた取り組み

- ・ 栄養塩添加に向けた取り組み
- ・ 施肥試験の取り組み
- ・ ダム・ため池放流の取り組み
- ・ 栄養塩管理試験の取り組み
- ・ 他

3. 「養殖海苔の品種改良」

- ・ 養殖海苔の突然変異育種
- ・ イオンビーム育種
- ・ 他



兵庫県立農林水産技術総合センター二羽氏による講演

続いて香川県水産課主席専門指導員香川 哲氏より「平成20年度香川県ノリ養殖状況の結果について」の報告があった。

- 1、平成20年度ノリ養殖状況の概要
 - ・ 漁期中を通して、高水温と低栄養塩で推移する厳しい環境であった。
 - ・ 最終的に約6億枚、45億円の共販実績であった。
 - ・ 平成20年度ノリ養殖が順調に推移した原因の推定
(2月以降の降雨により、栄養塩が補給された。ユーカンピア等の増殖がなかった。漁場環境の改善。下物高)
- 2、今漁期の対応について
 - ・ 低栄養塩状況の中でも完全な色落ちに至らず、長期間生産が継続できた手法を実施。
 - ・ 摘採間隔を短めに維持する。
 - ・ 酸処理等の沖の管理をこまめに実施。
 - ・ 状態の悪い網は撤去し、セットの環境を維持・改善する。
 - ・ 陸の加工は余裕を持って対応する。(ノリの状態や気象条件等に注意する。)
- 3、販売対策について
 - ・ 商品開発、PR活動等

決定「香川おさかな大使」

去る9月15日(火)漁連会館5階中会議室にて、さぬき海の幸「ハマチ・ノリ・イリコ」販売促進事業の一環として募集していた、香川県産の水産物をPR活動する「香川おさかな大使」の最終審査会が行なわれ、「香川おさかな大使」には井口紗矢香さん(25)、杉山未佳さん(23)の2名が選ばれた。今回の「香川おさかな大使」の募集については失業者等に短期的な雇用・就業機会を提供する県の緊急雇用創出基金を活用して実施するもので、雇用期間は平成21年10月1日～平成22年2月26日まで。

「香川おさかな大使」は、昨年の「ハマチ養殖80周年記念事業」で募集した「香川ハマチ大使」に続き、県魚のハマチの他、香川県産のノリ、イリコ等の販売促進、販路拡大、宣伝活動に関する業務等を行う。「香川おさかな大使」には県内から13名の応募があり、この中から書類審査を通過した6名を服部県漁連会長ら5人の審査員が面接などで審査を行った。面接ではハマチの売り込み方とか、魚に対する思いなどを質問し、積極性や豊かな表現力等を持つ2人を選んだ。

「香川おさかな大使」に選ばれた井口さんは「魚が苦手な子供にも食べてもらえるようにPRに努めたい。」、杉山さんは「県魚ハマチを中心とする香川のおいしい魚を、多くの人に知ってもらえるように努力したい。」と抱負を述べていた。



服部会長を挟んで杉山さん(左)と井口さん(右)